

ベース・レジストリの概要



2020-10-23

事務局

ベース・レジストリとはなにか

- 「ベース・レジストリとは、公的機関等で登録・公開され、様々な場面で参照される、人、法人、土地、建物、資格等の社会の基本データ」であり、正確性や最新性が確保された社会の基幹となるデータベース。日本では台帳等が相当する場合が多い。
- 全ての社会活動の土台であり、デジタル社会における必須の環境。
- ベース・レジストリの有無が、国の競争力を左右する。
- AIやドローン等にはデータが必要。これらの最新のデジタルテクノロジーを活用する基盤をベース・レジストリが担う。

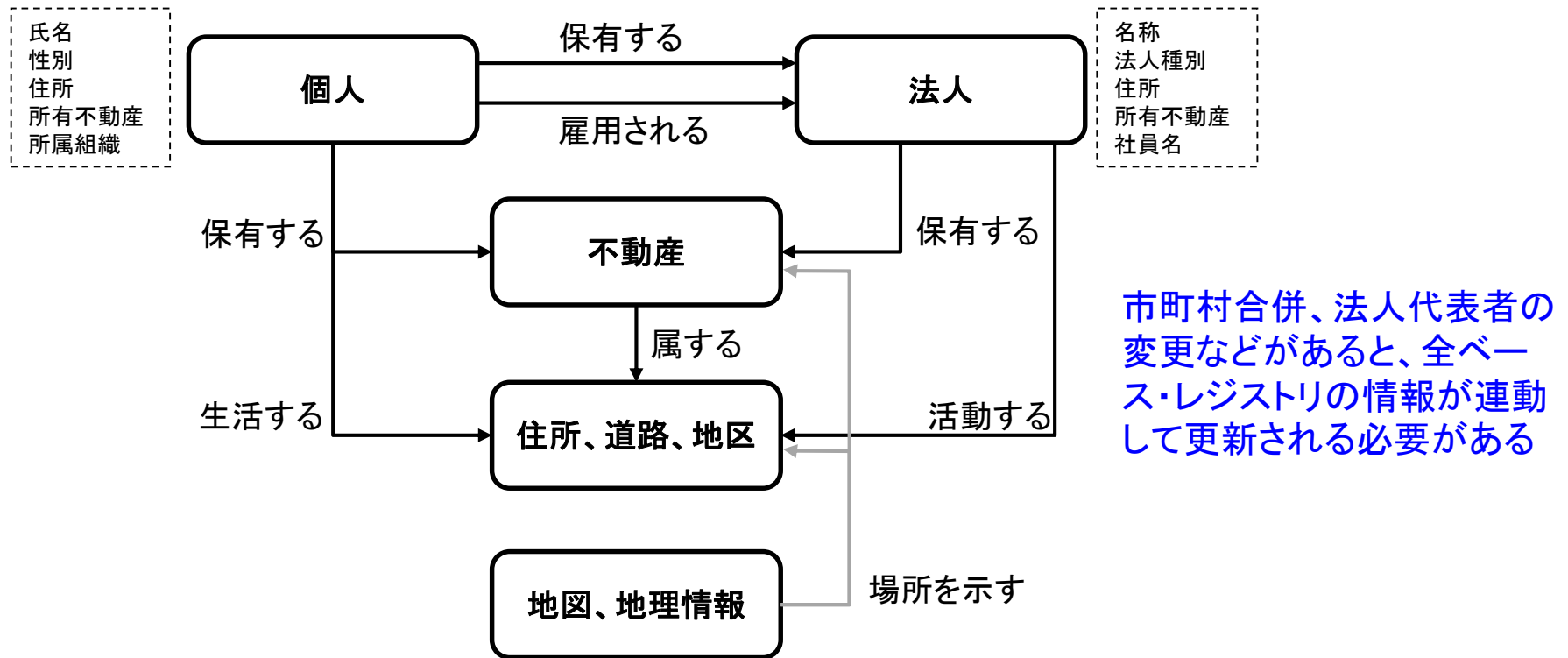


| | | | | | | | | | |
|----------|-----------|-----------|-----------|-------------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|
| 人 データ | 法人 データ | 土地 データ | 建物 データ | インフラ データ | 交通 データ | 気象 データ | 自然 データ | 許認可 データ | 資格 データ |
|----------|-----------|-----------|-----------|-------------|-----------|-----------|-----------|------------|-----------|

公的機関等

ベース・レジストリは連携させることが重要

- ベース・レジストリは単体でも効果はあるが、複数のベース・レジストリを相互参照することで、その効果を飛躍的に増大させることができる。
- そのため、**政府横断で方針を決定**し、その方針に従い、各データの担当府省が責任を持ち推進する必要がある。

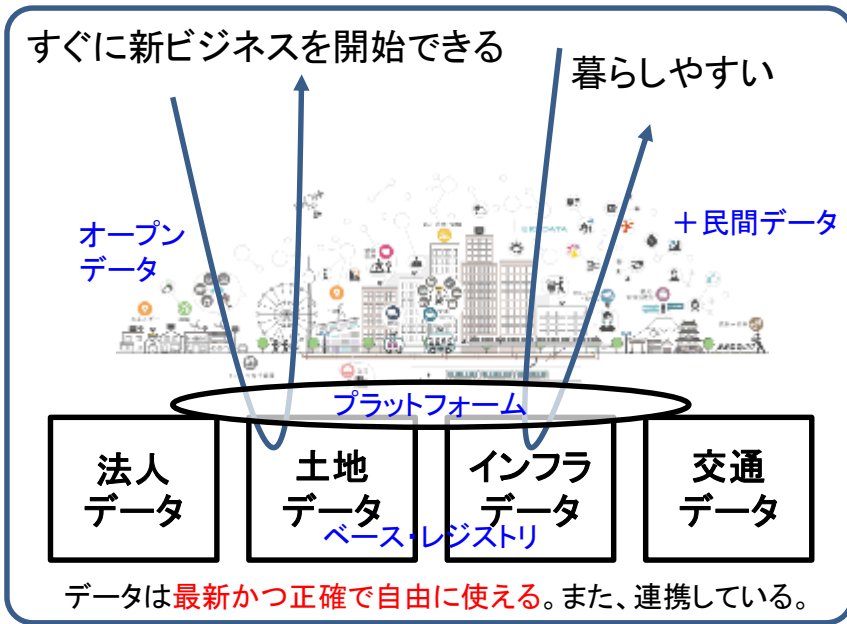


- 相互にエラーレポートを報告することも重要。

なぜそれほど重要なのか

- 先進技術で使われるデータが安価に安定的に供給される持続可能なエコシステムが重要。社会の基本データは、デジタル時代のインフラであり、地力(ポテンシャル)である。
- デジタル先進国は、ワンスオンリーとスマートシティに欠かせないものとして、ベース・レジストリ(台帳類)を重視している。

ベース・レジストリが整備済みの国・都市



ベース・レジストリの整備が遅れている国・都市



人々や企業、投資は、より魅力的な場所へ移動

- サービス等は外部のものを導入することができるが、各組織のデータは自力で整備するしかない。
 - 50年後、100年後のデジタル社会を展望したデジタル社会の基盤として、エストニアは20年、デンマーク、オランダは10年以上かけて整備している。

サービス、技術が経済のエコシステムを回すエンジンであり、データが燃料。ベース・レジストリはその中核。

ベース・レジストリの経済効果

- 直接的な業務効率化などの効果があるのはもちろんのこと、他部門に与える間接効果や経済インパクトが大きい。

デンマークの事例

- 改革しないと業務実施に10,236milDKK(1,664億円)かかる (シナリオ0)
- 605.6milDKK(98億円)の投資で、業務実施が2,740.6milDKK(445億円)になる(シナリオ1)
- 結果として、15年間で7,522.4milDKK(1,223億円)の効果が得られる見込み(1DKK=16.26円)
- 投資は、1年強で回収し、15年間で12.5倍の投資対効果(行政コスト)

Basic Data business Case

| Mio.DKK, 2012-2027 | |
|-------------------------------------|-----------------|
| Programme costs w/o interest | 605,6 |
| Immaterial | 192,6 |
| Personel (wages) | 208,8 |
| Services | 199,0 |
| Risk reserve | 5,2 |
| Scenario 0 (no programme) | 10.263,0 |
| Personel (wages) | 1.699,0 |
| Services | 177,6 |
| Other | 8.386,4 |
| Scenario 1 | 2.740,6 |
| Personel (wages) | 693,9 |
| Services | 833,3 |
| Other | 1.213,4 |
| Total benefits | 7.522,4 |

データ管理コスト、修正コストなどで内部削減を計算。

住所データベースでは、2003年から2010年までの初期投資に€2.8m、経済効果€77mであり、民間も含め27.5倍の投資対効果(利用の70%が民間)

ベースレジストリの実現ポイント

- 最大の効果を得るため、データ標準、ルール、品質の3点が必要である。

データ標準

データ収集から蓄積データの内部活用、データ連携、オープンデータまで、一貫した標準を使うことで、現場の負荷、コストを下げ、品質を向上させる。

主なデータ標準

- 様式等のテンプレートレベルの標準(申請書等)
- 様式内のデータ項目レベルの標準(日付等)
- 項目レベルの表記(2020-10-23等)
- ヨミガナ、ローマ字を含む文字の扱い
- センサーデータ等の数値データの扱い

ルール

データ管理に関する理念を法律等で明確化し、個別制度との調整コストをなくすとともに、迅速に社会へ定着させる。

先進各国の主な重要ルール

- ベースレジストリのデータが紙と同等と定義
- 部門横断でのデータ共有原則を正式に定義
- ベースレジストリの有無を法律策定時に確認
- 相互連携の共通インフラでベースレジストリのデータを使うと定義

品質

可視化する等、データの正確性や最新性の確保することで、社会活動を支え、データ活用場面でのエラーや事故を防ぐ。

評価イメージ

- データ本体の評価(ISO25012)
 - ○ データ: 最新性 ■ 正確性 ■ 網羅性 ■
- データの流れの評価(ISO25024)
 - ☆ ☆ データ: 入力 ■ 蓄積 ■ 出力 ■
- データがバネンスの評価(ISO8000)
 - △ △ データ: 計画 ■ 体制 ■

推進方法

■ 範囲と詳細度

既存データの整備状況等により、先進各国でもベースレジストリの対象範囲や詳細度が異なる。

- 対象
 - 「ワンスオンリーデータ」「スマートシティ」関連データ、経済的インパクトの大きいデータである「住所」「法人」を重点としている国が多い。
- 情報の連携範囲
 - オープンデータ、行政機関の連携、データ保有者による再利用等、データ再利用や連携する範囲をデータ毎に定義している。
- 項目の詳細度
 - 法人名、住所のような基本項目、役員情報等、情報項目毎に情報の連携範囲を決める場合もある。

■ 体制

先進各国では、分野横断かつ国の基本データを見直すためリーダーシップを重視してプロジェクトを推進している。

- 強力な実力とリーダーシップを持つCDO(Chief Data Officer)を設置しはじめている。
- CDOを支えるため諮問委員会等を設置し、取組状況の管理や推進のための府省間の調整を行っている。
- アーキテクト、エンジニア、サイエンティスト等、体系に人材を揃えている。

参考1：先進各国のベース・レジストリの対象

- 個人、法人、土地、不動産、自動車、ベースレジストリにしている国が多い。

| | 個人 | 外国人 | 法人 | 事業場 | 土地 | 不動産 | 住所 | 地図等 | 地下 | 道路 | 水と気候 | 自動車 | 運転免許 | 資格免許 | 法律 | 判例 | 収入・税 | 施設 | 政府機関 | 学校 | 病院 | 刑務所 | 学生 | 労働者 | 公文書 | 年金 | 犯罪歴 | 物品 | 医薬品 | 有害危険物 | 営業許可 |
|--------|----|-----|----|-----|----|-----|----|-----|----|----|------|-----|------|------|----|----|------|----|------|----|----|-----|----|-----|-----|----|-----|----|-----|-------|------|
| EC | | | | | ○ | | | | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | |
| デンマーク | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| オランダ | ○ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | |
| チェコ | ○ | | ○ | | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | |
| スロバキア | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | | | | | ○ | | | | | | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | | |
| エストニア | ○ | | ○ | | ○ | | | | | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 英国 | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | ○ | | | | | | | ○ | ○ | | ○ | | | | | | | | | |
| 米国 | ※ | ○ | | ○ | | | ※ | | | | | ○ | ○ | ○ | | | | ○ | | | | | | | | | | ○ | ○ | ○ | |
| 韓国 | ○ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 中国 | ○ | | ○ | | ○ | | | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ |
| シンガポール | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | ○ | | | | ○ | | | | | | | | ○ | | | | | | | | | | | |
| インド | ○ | | ○ | | ○ | ○ | | | | | | ○ | ○ | | | | ○ | | | ○ | ○ | | | | | | | | | | |

※：米国はSSN

※：米国はNAD

参考2: デジタル改革アイデアボックスへの声

- 2020年10月9日から、国民の意見を広く集める「デジタル改革アイデアボックス」を実施。ベースレジストリに関連する意見が数多く寄せられている。
 - 住所データの整備等、社会の基本データの整備を求める声が多い。
 - ・ ベースレジストリの整備で解決可能
 - 重複入力の削減に関する声が多い
 - ・ ベースレジストリによりワンスオンリーを実現することで解決可能
 - 自動審査による給付や手続きが終わってほしいとの声が多い
 - ・ ベースレジストリを活用した審査で可能(詳細データが必要なため二次フェーズ)

ベースレジストリの整備と公開

- ・ 住所辞書のオープンデータ化
- ・ 住所マスターの整備と公開
- ・ デジタルツイン構築のためのオープンデータ取得の仕組みとルール整備を早急に
- ・ 地番と住所の統合

データ再利用や連携

- ・ 住所や生年月日はもう書きたくない
- ・ 住所変更を1箇所ですべて完結できるようにする
- ・ 1回の記述で住所変更を終わらせて
- ・ 「住所記入」の手間を削減したい
- ・ 商業登記の変更で、自治体への代表者氏名変更を不要に

既存データを使った自動手続

- ・ 手続きなしに完了する仕組み
- ・ 補助金申請の自動化

ルール

- ・ 官民の一元的なルールとしての制度設計を
- ・ まず書式統一から

データ品質

- ・ 登記データ等、汚いデータの品質を公開して